

第1章 松阪市の現況

1 市の概要

本市は、県下では津市に次いで広大な面積(62,358ha)を有し、市域人口は 2020(令和2)年(国勢調査)で 159,145 人となっている。

2023(令和5)年3月末現在において、市街化区域は 3,074ha で、市域に占める市街化区域面積の割合は約5%、市街化区域人口の割合は約 60%とコンパクトに市街地が形成されている。

市街化区域の人口密度は約 31 人/ha で、松阪駅周辺は、歴史的市街地を中心に比較的ゆとりのある市街地となっており、伊勢中川駅周辺では、土地区画整理事業によるコンパクトな新市街地が形成されている。

また、2020(令和2)年の国勢調査における人口集中地区(約 1,592ha、約 74,300 人)の人口密度は約 47 人/ha で、市街化区域に対する面積割合(工業系用途地域を除く)は、約 59%、人口割合は約 78%※となっている。

人口

・都市計画区域 144.7 千人 市街化区域 94.7 千人 市街化調整区域 50.0 千人

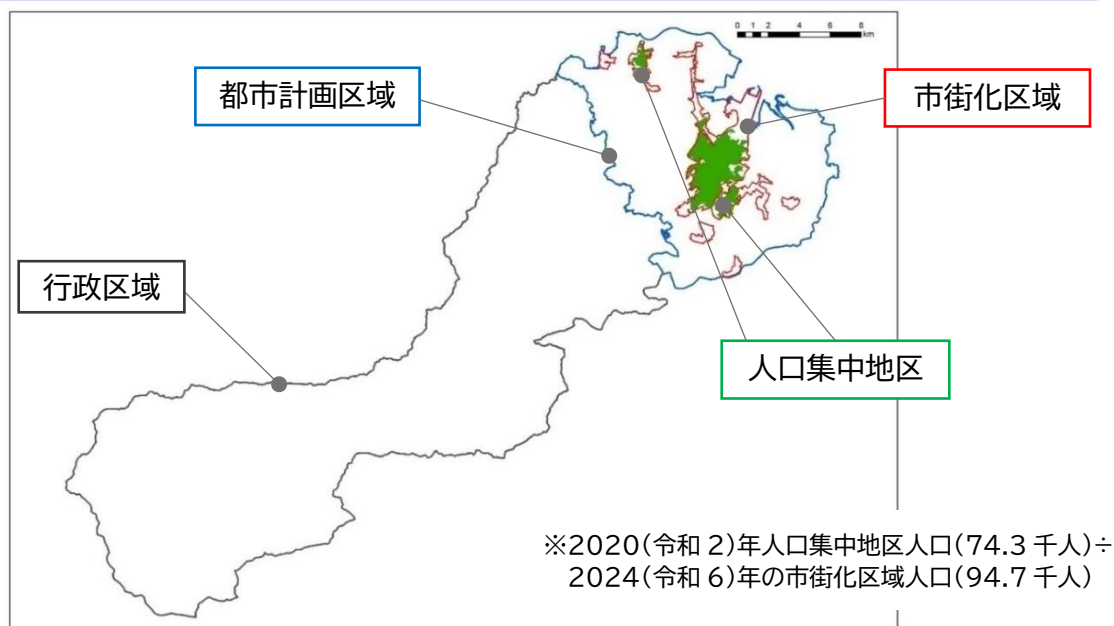
面積

・都市計画区域 17,442ha 市街化区域 3,074ha 市街化調整区域 14,368ha

人口密度

・都市計画区域 8.3 人/ha 市街化区域 30.8 人/ha 市街化調整区域 3.5 人/ha

資料:国土交通省「都市計画現況調査」(R6.3)



人口集中地区(DID)

市区町村の区域内で人口密度が 40 人/ha 以上の国勢調査単位区が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区

2 松阪市の現況

(1)人口

●人口推移

本市の2020(令和2)年(国勢調査)の人口は、159,145人で、2005(平成17)年から2010(平成22)年にかけて減少に転じており、2010(平成22)年から2015(平成27)年、2020(令和2)年にかけては減少割合が拡大している。

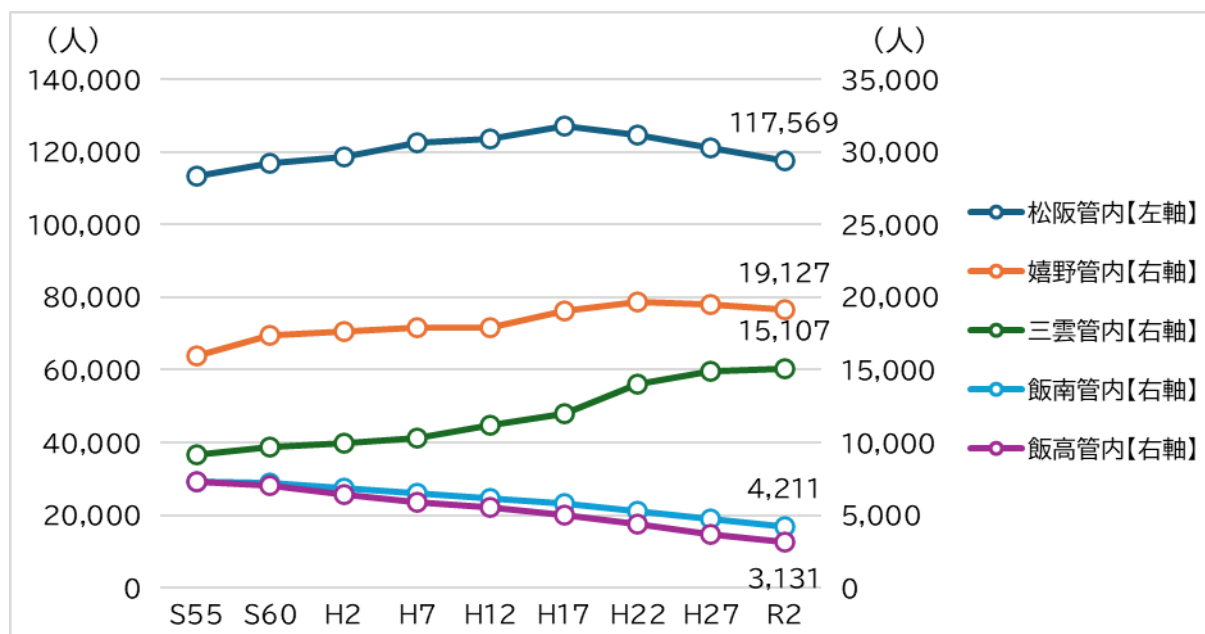
人口の約74%を松阪管内が占めており、嬉野管内、三雲管内をあわせた市の東部に人口の95%以上が集中する状況となっている。

地域別では、三雲管内において増加がみられる一方、2015(平成27)年まで増加傾向にあった嬉野管内で減少がみられ始めている。

地域別人口の推移(単位:人)

人口	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	構成比
松阪管内	113,481	116,886	118,725	122,449	123,727	127,142	124,754	121,036	117,569	73.9%
嬉野管内	15,994	17,329	17,611	17,903	17,884	19,021	19,637	19,483	19,127	12.0%
三雲管内	9,181	9,680	9,941	10,336	11,158	12,008	13,983	14,866	15,107	9.5%
飯南管内	7,257	7,194	6,891	6,528	6,180	5,800	5,299	4,774	4,211	2.6%
飯高管内	7,272	7,066	6,457	5,915	5,555	5,002	4,344	3,704	3,131	2.0%
松阪市計	153,185	158,155	159,625	163,131	164,504	168,973	168,017	163,863	159,145	100.0%
前年度比	-	3.1%	0.9%	2.1%	0.8%	2.6%	-0.6%	-2.5%	-3.0%	-

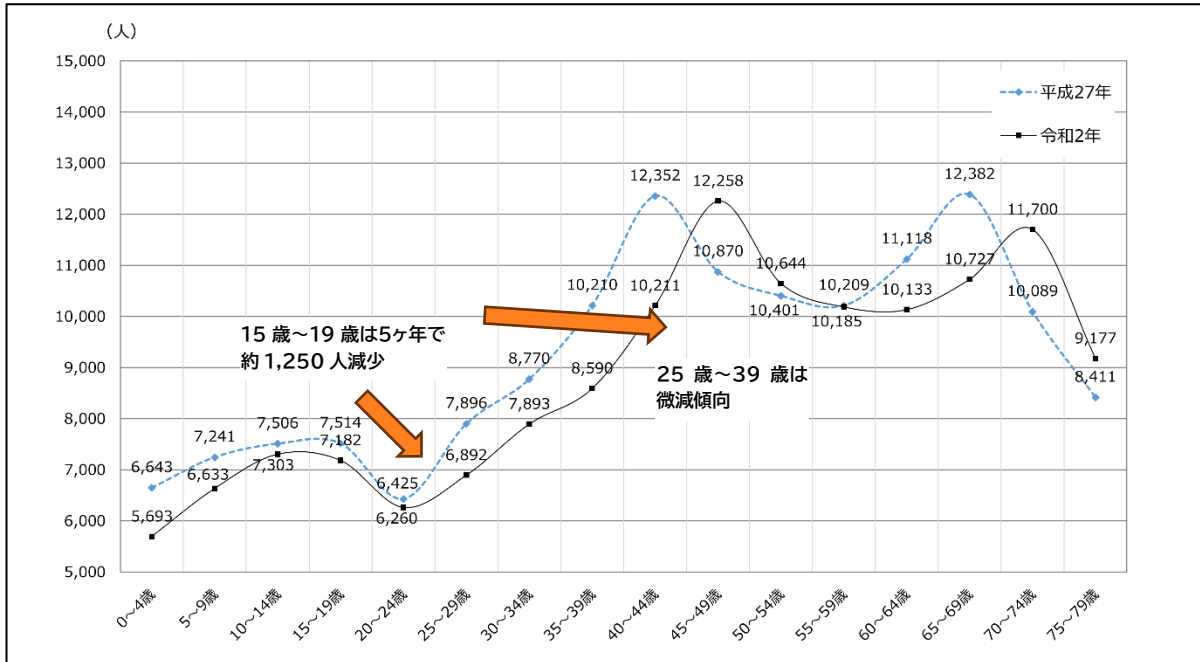
資料:国勢調査



資料:国勢調査

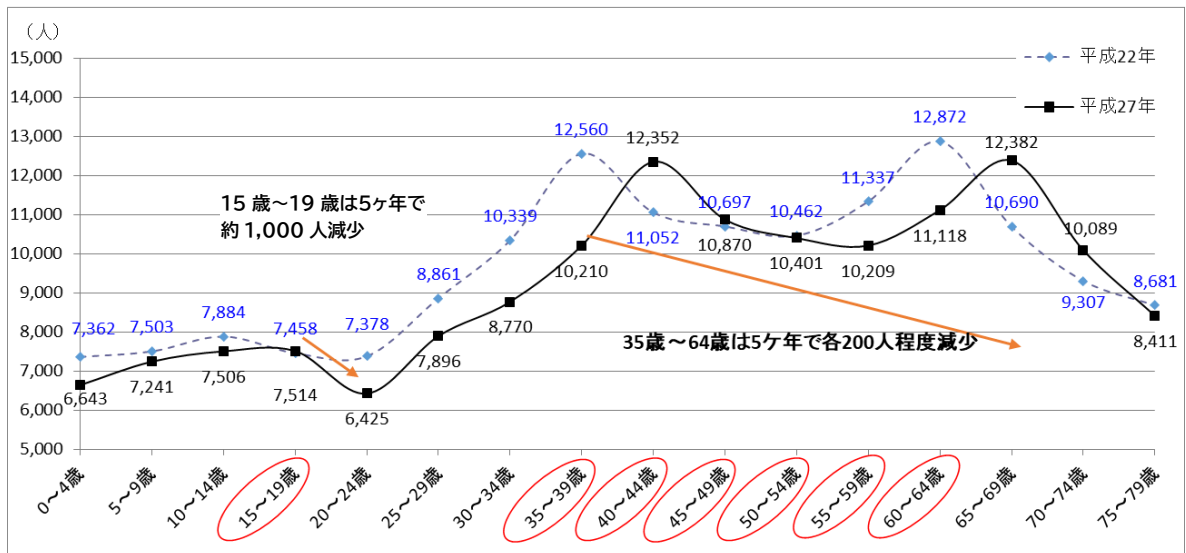
地域別人口の推移

2015(平成 27)年から 2020(令和2)年の 5 歳階級別人口移動をみると、15 歳から 19 歳がその後の 5 ヶ年で転出により大幅に減少している。25 歳から 39 歳の子育て世代は依然として減少傾向があるが、40 歳以上の減少は 2010(平成 22)年から 2015(平成 27)年の減少と比べて鈍化している。



資料: 国勢調査

5 年間(2015(平成 27)年から 2020(令和2)年)の人口移動



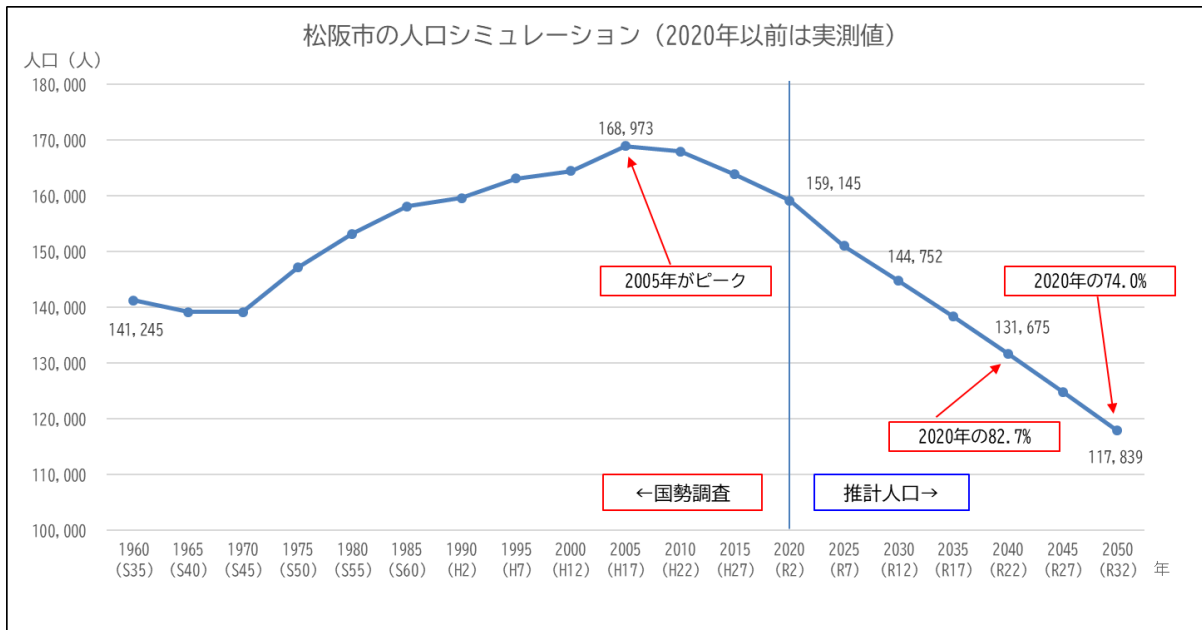
資料: 国勢調査

【参考】5 年間(2010(平成 22)年から2015(平成 27 年)の人口移動

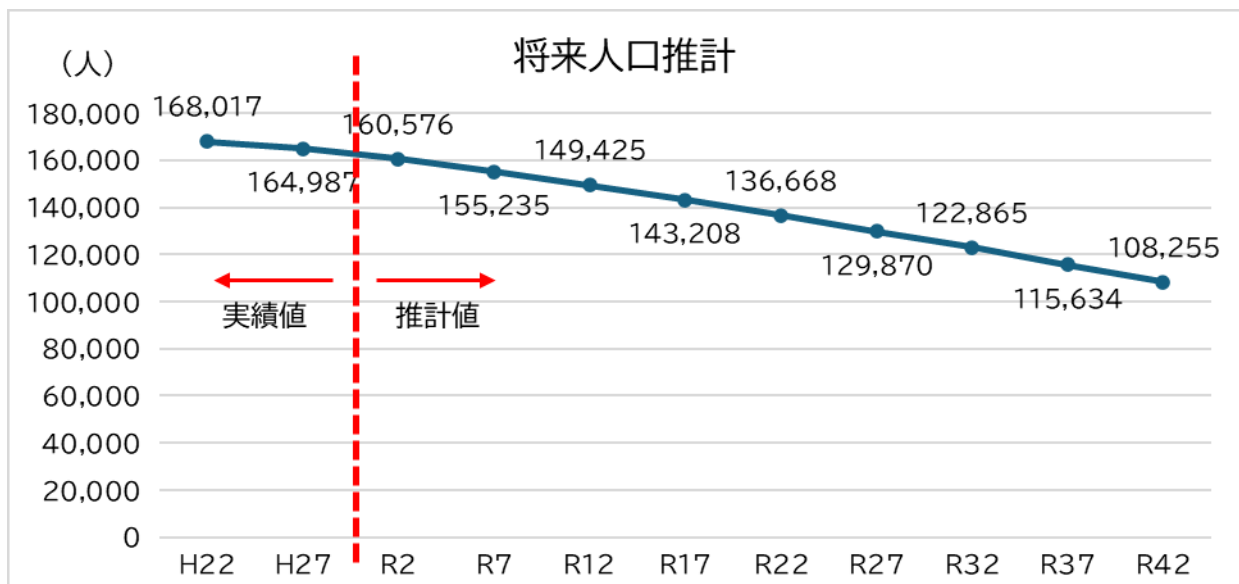
●将来人口推計

目標年次である2045(令和27)年の人口は、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の2023(令和5)年推計で約125,000人、2050(令和32)年には、約118,000人になると推計されており、2020(令和2)年と比べて26%減少となっている。

社人研の2018(平成30)年推計と比べて、2045(令和27)年の人口は、さらに約5,000人の減少が進むと推計されている。



資料:国立社会保障・人口問題研究所(2023(令和5)年推計)



資料:国立社会保障・人口問題研究所(2018(平成30)年推計)

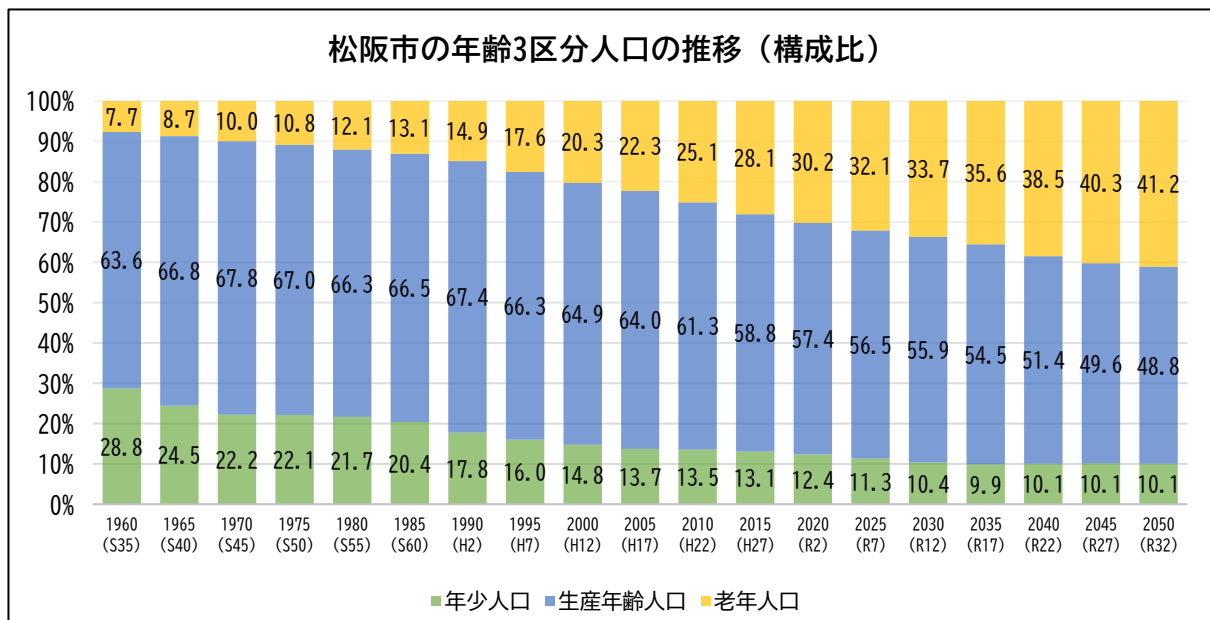
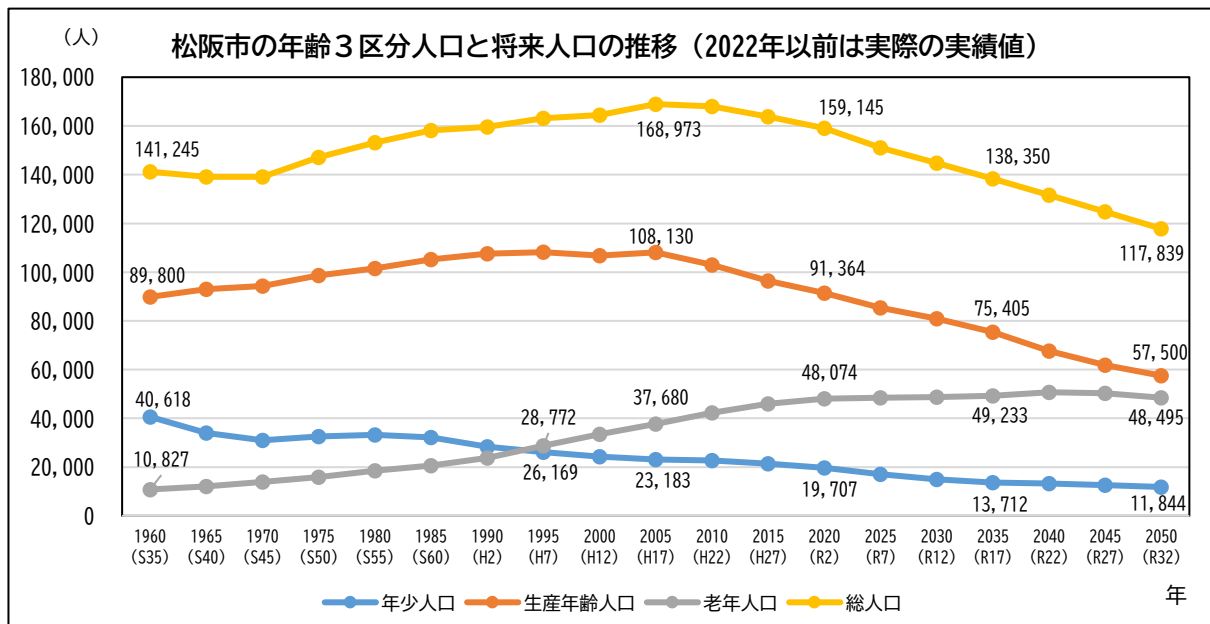
【参考】将来人口推計(2018(平成30)年推計)

●年齢3区分別人口割合

年齢3区分別人口の構成比をみると、2015(平成 27)年から 2020(令和2)年までの5年間で、生産年齢人口が 60%を下回り、老年人口が 30%を超えている。

また、今後もこの傾向が続くことが予測され、2050(R32)年の年齢3区分人口構成比は、年少人口 10.1%、生産年齢人口 48.8%、老年人口 41.2%となる推計が出ている。

※年少人口(15 歳未満)、生産年齢人口(15 歳から 64 歳)、老年人口(65 歳以上)



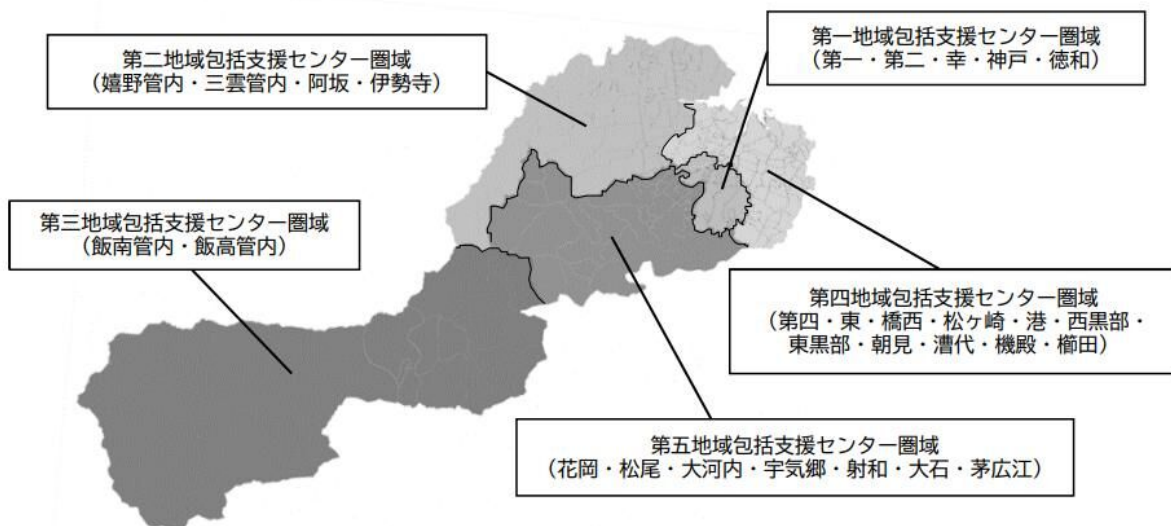
資料:国勢調査/国立社会保障・人口問題研究所(2023(令和5)年推計)
 ※比率は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある

地域包括支援センター別の高齢化率をみると、都市計画区域外の第三地域包括支援センター圏域(飯南・飯高管内)で49.0%と最も高くなっており、最も低いのが第一地域包括支援センターの28.3%となっている。

地域包括支援センター別地域別高齢化率

区分	人口①	65歳以上人口②	高齢化率②/①	75歳以上人口③	人口に占める割合③/①
第一地域包括支援センター	35,676人	10,092人	28.3%	5,610人	15.7%
第二地域包括支援センター	39,329人	11,495人	29.2%	6,231人	15.8%
第三地域包括支援センター	7,342人	3,594人	49.0%	2,106人	28.7%
第四地域包括支援センター	41,992人	12,889人	30.7%	7,071人	16.8%
第五地域包括支援センター	33,879人	10,266人	30.3%	5,426人	16.0%
合計	158,218人	48,336人	30.6%	26,444人	16.7%

資料:第10次高齢者保健福祉計画(2023(令和5)年4月1日現在)



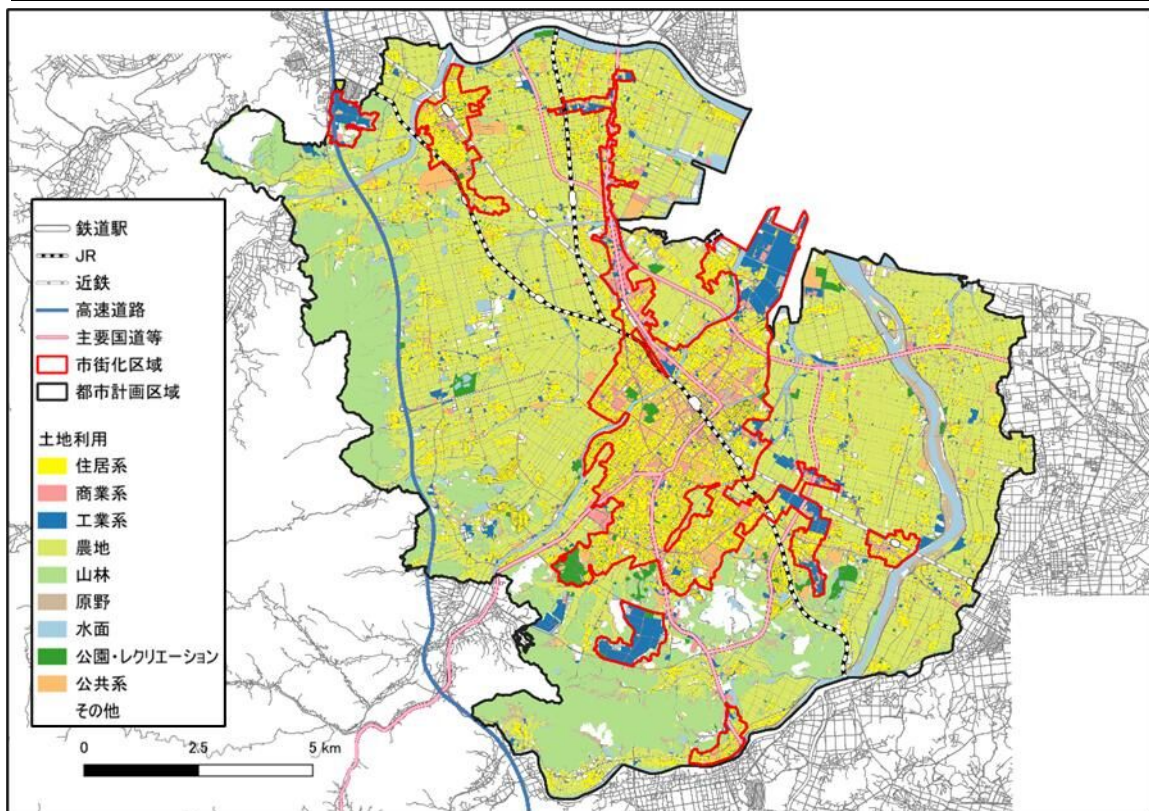
(2)土地利用

●土地利用現況

都市計画区域内の土地利用の現況をみると、農地が40.2%と最も多く、次いで山林が15.3%となっている。住居系は11.1%となっており、松阪管内及び伊勢中川駅周辺にまとまった住宅地が形成されている。また、商業系は2.6%となっており、松阪駅周辺や国道沿道に立地していることがうかがえる。

単位:ha

	松阪	嬉野	三雲	合計	
住居系	1,440.5	285.8	209.3	1,935.6	11.1%
商業系	346.3	26.5	84.7	457.6	2.6%
工業系	467.7	67.0	54.7	589.5	3.4%
農地	4,743.0	1,196.8	1,075.3	6,882.6	40.2%
道路	1,091.0	295.4	175.9	1,562.3	9.0%
港湾施設等用地	15.9	0.0	0.2	16.1	0.1%
交通施設用地	27.7	25.0	18.1	70.9	0.4%
山林	1,746.1	915.1	4.6	2,665.8	15.3%
公益施設用地	185.0	24.6	19.2	228.8	1.3%
レクリエーション施設	33.3	0.5	1.5	35.3	0.2%
公共施設用地	61.7	10.6	19.5	91.8	0.5%
原野	554.0	63.4	49.4	455.6	3.8%
水面	599.5	138.6	186.3	924.4	5.3%
公園緑地	148.5	13.0	10.4	171.9	1.0%
教育施設用地	88.7	62.7	12.4	163.8	0.9%
その他	631.5	172.3	42.2	1,189.6	4.8%



資料:都市計画基礎調査(2024(令和6)年)

土地利用現況図(都市計画区域内)

●開発動向(新築)

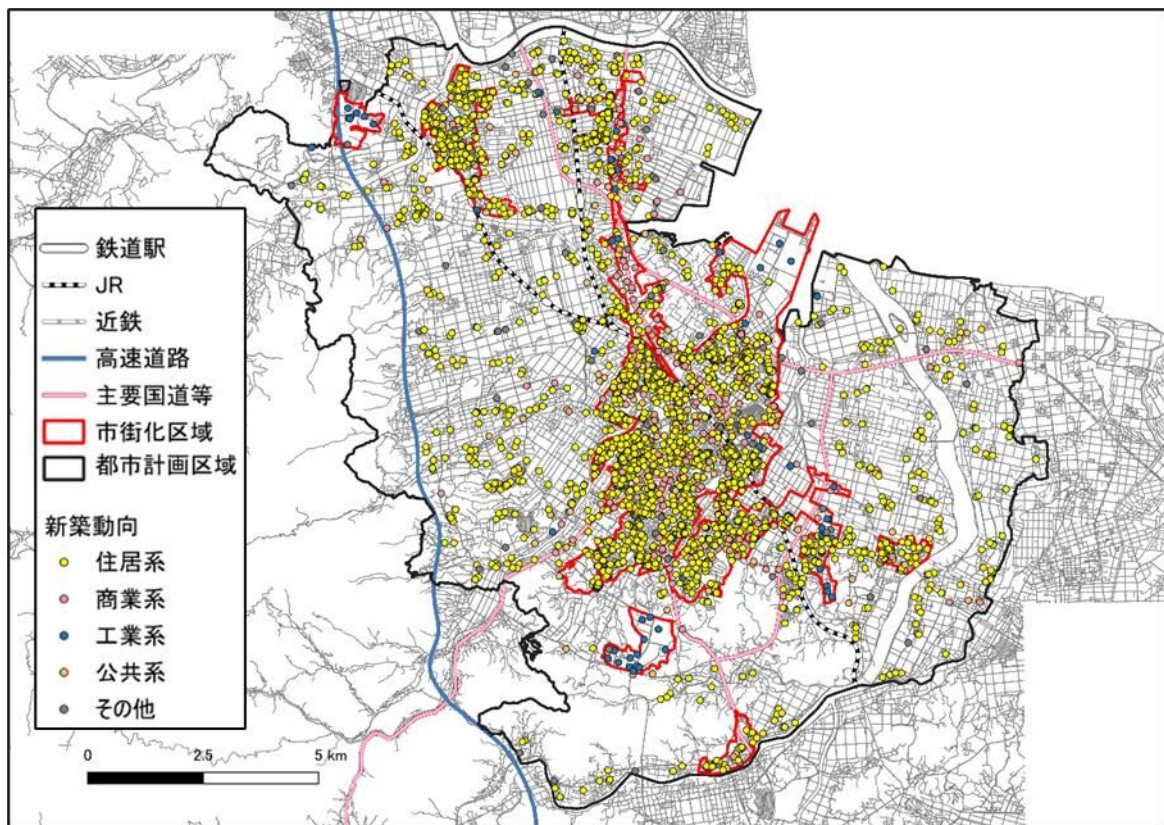
都市計画区域内における建築確認申請の推移をみると、市街化区域では増減を繰り返していたが、近年は約470件で推移している。市街化調整区域も同様に増減を繰り返しており、2024(令和6)年度は約120件の申請となっている。

都市計画区域内の建築確認申請の推移

単位:件

年度	総数			市街化区域			市街化調整区域		
	松阪	嬉野	三雲	松阪	嬉野	三雲	松阪	嬉野	三雲
H28	564	80	98	449	53	12	111	27	86
H29	573	103	97	459	80	13	113	22	84
H30	633	79	93	531	61	13	101	18	80
H31	531	88	65	427	56	7	101	32	58
R02	580	92	47	498	65	11	82	27	36
R03	515	80	51	412	54	13	103	26	38
R04	487	72	52	405	48	14	82	24	38
R05	482	69	40	401	51	17	79	18	23
R06	475	75	41	400	54	14	74	21	27

資料:松阪市



資料:都市計画基礎調査(2024(令和6)年)

新築の分布図

注)都市計画基礎調査(2024(令和6)年)は、2016(平成28)年から2020(令和2)年までの間で新築されたもの。

●農地転用

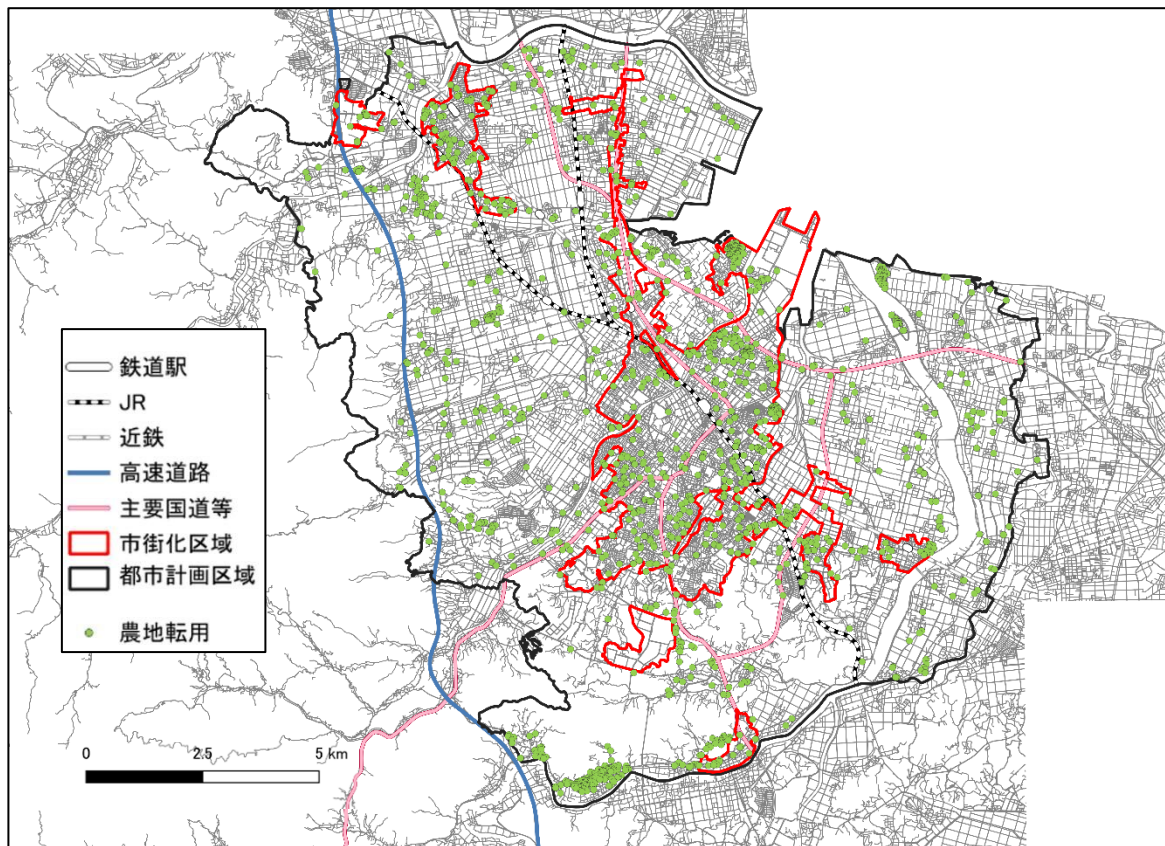
市街化区域の農地転用の状況を見ると、増減を繰り返しており、2024(令和6)年度は92件(約8.5ha)となっている。市街化調整区域も同様に増減を繰り返しており、2024(令和6)年度は97件(約13.2ha)となっている。

農地転用の推移

単位:件、ha

	総数		市街化区域		市街化調整区域	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積
2020(令和2)年度	236	17.7	101	7.7	135	10.0
2021(令和3)年度	245	19.1	138	9.7	107	9.3
2022(令和4)年度	232	19.9	140	12.5	92	7.4
2023(令和5)年度	240	22.4	113	11.3	127	11.0
2024(令和6)年度	189	21.7	92	8.5	97	13.2

資料:松阪市農業委員会



資料:都市計画基礎調査(2021(令和3)年)

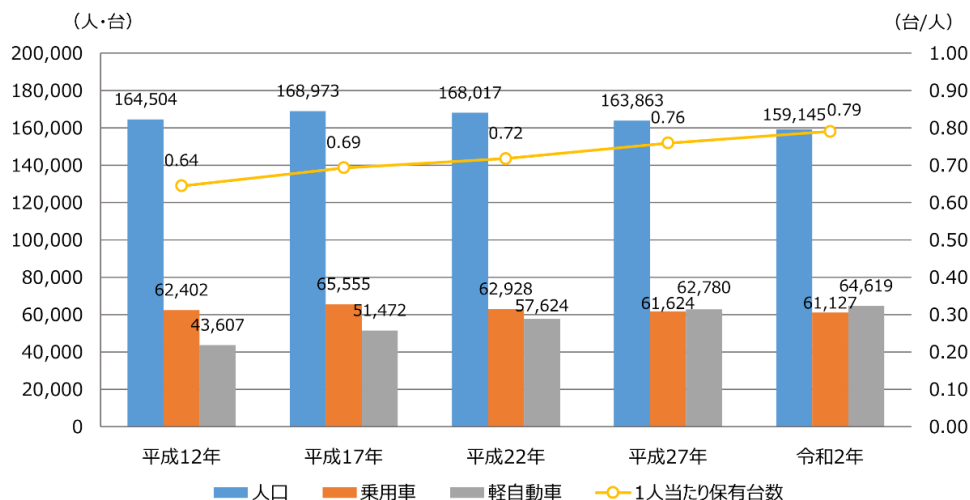
農地転用の分布図

注)都市計画基礎調査(2021(令和3)年)は、2016(平成28)年から2020(令和2)年までの間で農地転用されたもの。

(3)交通

●自動車の保有台数

乗用車の保有台数は横ばい、軽自動車の保有台数は増加しており、市民一人あたりの自動車保有台数は増加傾向にある。



資料：国勢調査、三重県統計書

自動車保有台数の推移

●鉄道駅別旅客乗車人員の推移

旅客乗車人員の推移をみると、2020(令和2)年度以降は新型コロナウイルスの影響のため、大きく減少となっている。2022(令和4)年度以降は徐々に回復傾向がみられるが、2019(令和元)年度以前までは利用者数が戻っていない状況にある。

鉄道駅別旅客乗車人員の推移

単位：人／年

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和4年度	令和5年度
JR	六軒	37,016	35,979	41,783	44,186	37,129	36,963	37,108	42,367
	松阪	584,515	581,052	603,092	622,833	452,432	438,779	499,814	542,353
	徳和	152,088	159,715	155,326	150,969	142,077	134,018	143,846	141,718
	上ノ庄	2,785	2,266	2,533	2,173	1,400	1,282	1,233	1,814
	権現前	8,499	10,353	9,799	12,042	11,490	10,863	11,039	8,515
近鉄	漕代	73,496	70,961	74,377	69,253	53,567	48,855	50,915	51,898
	櫛田	252,855	249,279	251,655	245,814	210,397	202,327	215,929	216,369
	東松阪	377,240	379,465	396,290	403,063	377,326	392,910	415,078	443,367
	松阪	2,792,227	2,820,608	2,810,512	2,755,482	1,926,262	1,984,181	2,243,197	2,360,496
	松阪(JR 経由)	1,036	2,115	1,459	1,501	1,361	1,465	2,086	1,689
	松ヶ崎	196,294	197,689	193,888	195,136	153,862	152,477	154,656	163,771
	伊勢中原	96,676	94,429	86,993	85,275	77,890	80,788	89,283	95,771
伊勢中川	1,485,835	1,509,648	1,522,891	1,562,541	1,055,638	1,070,313	1,207,682	1,311,869	
合計	6,060,562	6,113,559	6,150,598	6,150,268	4,500,831	4,555,221	5,071,866	5,381,997	

資料：三重県統計書

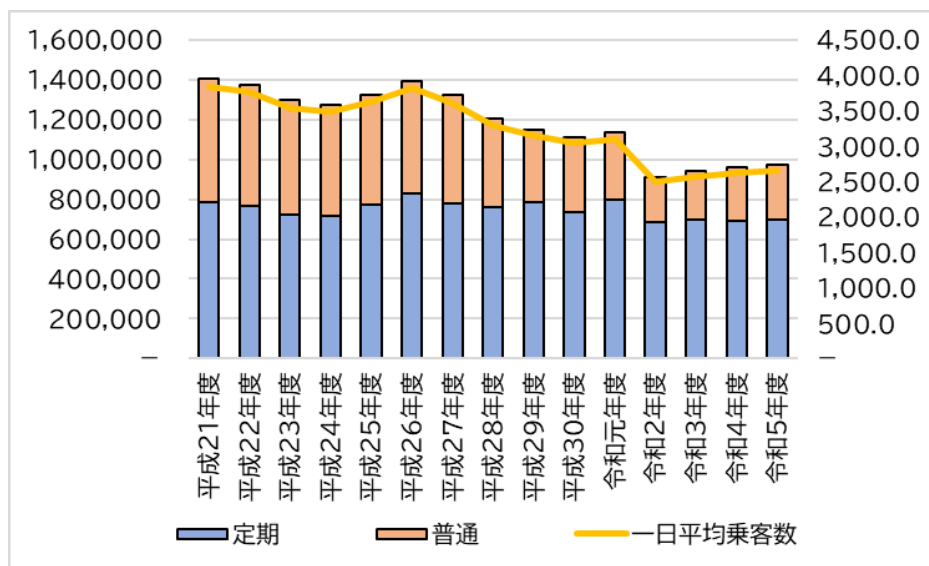
●地域公共交通(民間バス)の利用者数の推移

民間バス(三重交通)の利用状況の推移をみると、鉄道駅別旅客乗車人員と同様、2020(令和2)年度以降は新型コロナウイルスの影響のため、大きく減少となっている。徐々に回復傾向がみられるが、2019(令和元)年度以前の利用者数までは戻っていない状況にある。

民間バス(三重交通)の利用状況

単位:人

	乗客人員数	定期	普通	一日平均乗客数
平成 21 年度	1,403,200	786,563	616,637	3,844.4
平成 22 年度	1,374,034	767,855	606,179	3,764.5
平成 23 年度	1,296,921	720,963	575,958	3,543.5
平成 24 年度	1,273,298	715,275	558,023	3,488.5
平成 25 年度	1,325,126	772,961	552,165	3,630.5
平成 26 年度	1,394,052	830,825	563,227	3,819.3
平成 27 年度	1,321,582	779,837	541,745	3,610.9
平成 28 年度	1,202,467	757,581	444,886	3,294.4
平成 29 年度	1,147,200	781,799	365,401	3,143.0
平成 30 年度	1,109,213	737,134	372,079	3,038.9
令和元年度	1,136,447	794,243	342,204	3,105.0
令和 2 年度	912,485	686,758	225,727	2,500.0
令和 3 年度	939,072	698,197	240,875	2,572.8
令和 4 年度	958,625	689,313	269,312	2,626.4
令和 5 年度	974,934	699,876	275,058	2,663.7



資料: 三重交通株式会社 松阪営業所

民間バス(三重交通)利用状況の推移

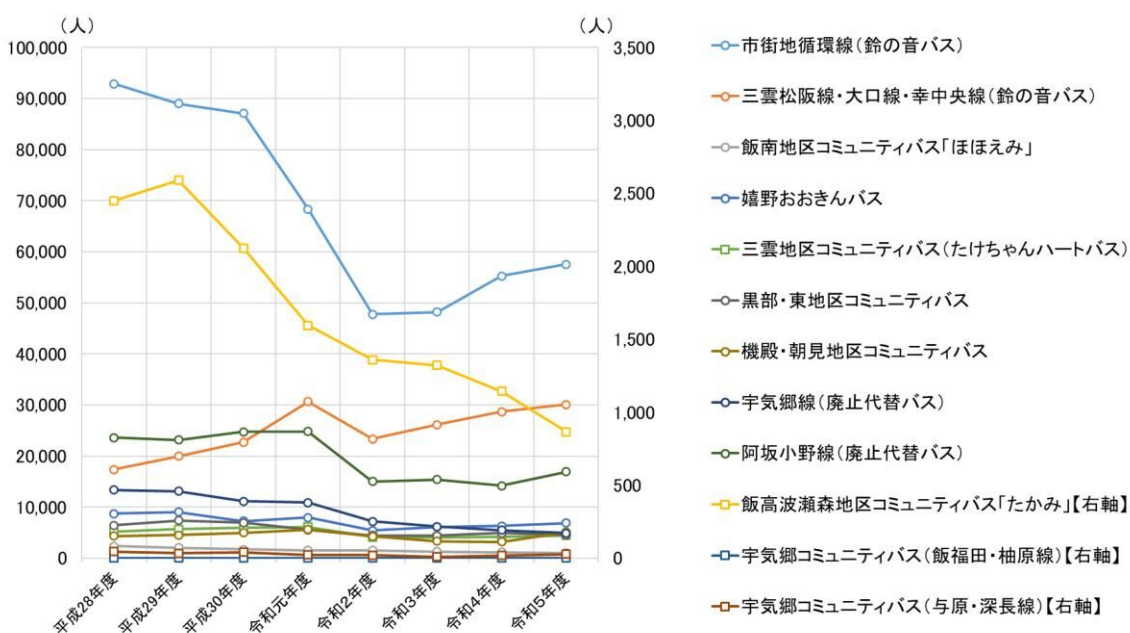
●コミュニティバスの利用者数の推移

コミュニティバスの利用状況の推移をみると、鉄道駅別旅客乗車人員と同様、多くの路線で2020(令和2)年度以降は新型コロナウイルスの影響のため、大きく減少となっている。2022(令和4)年度には回復傾向がみられるが、2019(令和元)年度以前までは利用者数が戻っていない状況にある。

コミュニティバスの利用状況

単位:人

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市街地循環線(鈴の音バス)	92,892	88,983	87,112	68,325	47,741	48,201	55,255	57,527
三雲松阪線・大口線・幸中央線(鈴の音バス)	17,391	19,967	22,714	30,657	23,360	26,149	28,653	30,076
飯南地区コミュニティバス「ほほえみ」	2,345	2,023	1,752	1,561	1,567	1,296	1,143	1,064
飯高波瀬森地区コミュニティバス「たかみ」	2,449	2,590	2,124	1,596	1,359	1,323	1,145	866
嬉野おおきんバス	8,755	9,015	7,238	7,957	5,435	6,120	6,301	6,880
三雲地区コミュニティバス(たけちゃんハートバス)	5,174	5,693	5,935	6,153	4,147	4,095	4,138	4,475
宇気郷コミュニティバス(飯福田・柚原線)	0	0	0	0	0	0	0	0
宇気郷コミュニティバス(与原・深長線)	46	34	40	22	20	9	19	28
黒部・東地区コミュニティバス	6,419	7,392	6,939	5,522	4,443	4,431	4,913	4,543
機殿・朝見地区コミュニティバス	4,315	4,564	4,978	5,594	4,289	3,317	3,224	5,125
宇気郷線(廃止代替バス)	13,375	13,132	11,163	10,900	7,200	6,200	5,500	4,900
阿坂小野線(廃止代替バス)	23,571	23,129	24,748	24,800	15,000	15,400	14,200	16,900



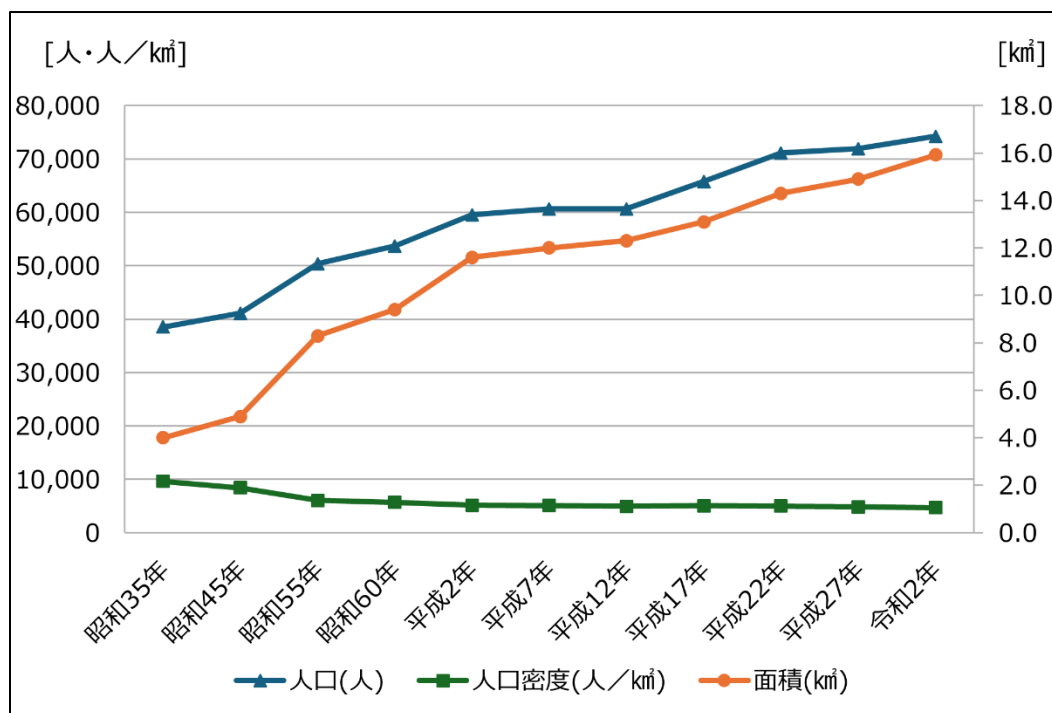
資料:松阪市商工政策課

コミュニティバス利用状況の推移

(4)市街地

●人口集中地区の変遷

2020(令和2)年における人口集中地区(DID)は人口が74,258人、面積は約16km²、人口密度は46.64人/ha(4,664人/km²)で、人口、面積は増加傾向、人口密度は減少傾向にある。



年次	人口(人)	面積(k m ²)	人口密度	
			(人/k m ²)	(人/ha)
昭和 35 年	38,529	4.0	9,632.3	96.32
昭和 45 年	41,087	4.9	8,385.1	83.85
昭和 55 年	50,351	8.3	6,066.4	60.66
昭和 60 年	53,669	9.4	5,709.5	57.09
平成 2 年	59,535	11.6	5,132.3	51.32
平成 7 年	60,626	12.0	5,064.8	50.64
平成 12 年	60,652	12.3	4,931.1	49.31
平成 17 年	65,750	13.1	5,034.5	50.34
平成 22 年	71,091	14.3	4,974.8	49.74
平成 27 年	71,932	14.9	4,821.2	48.21
令和 2 年	74,258	16.0	4,664.4	46.64

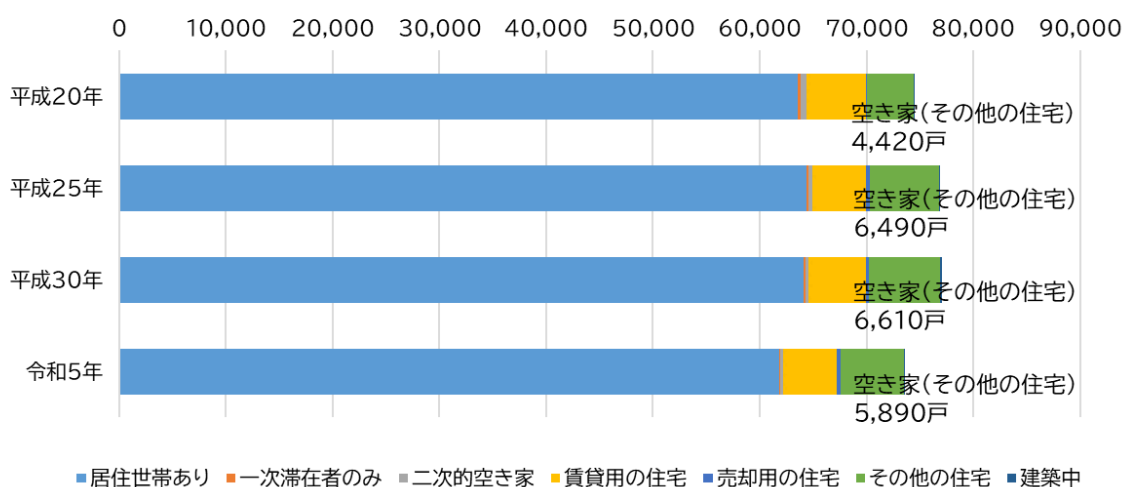
資料:国勢調査

(5)空き家

住宅・土地統計調査によると、2023(令和5)年の松阪市内の住宅数は 73,490 戸となっており、そのうち、居住世帯のある住宅が 61,830 戸となっている。

空き家(二次的住宅、賃貸の住宅、売却用の住宅、その他の住宅)数が 11,550 戸となっており、空き家率は 15.7%となっている。そのうち、空き家(その他の住宅)数は 5,890 戸であり、その空き家率は 8.0%となっている。

なお、2022(令和4)年の空家等実態調査では、空家等軒数は 4,103 件であり、第2次松阪市空家等対策計画(2024(令和6)年9月一部改訂)では、空家率が約 5.5%となっており、前回調査(2018(平成30)年)の 4.1%と比べて 1.4 ポイント増加している。



資料:住宅・土地統計調査

居住世帯の有無別住宅数

空家等実態調査による空家等軒数

管内	軒数	建物の状態 (居住の可能性)						
		比率	A	比率	B	比率	C	比率
市全域	4,103	132%	1,794	155%	1,501	134%	808	107%
本庁管内	2,646	135%	1,226	163%	989	137%	431	101%
嬉野管内	487	130%	205	154%	175	118%	107	118%
三雲管内	263	137%	130	157%	92	135%	41	108%
飯南管内	333	130%	115	129%	109	136%	109	130%
飯高管内	374	117%	118	120%	136	132%	120	103%

※「比率」は第1次計画との対比率

注)住宅・土地統計調査は、「居住実態のない住宅(賃貸用の空き家など)」も空き家に含んでいるが、空家等実態調査では、「その他の空き家」のみを対象としている。

資料:第2次松阪市空家等対策計画

※空家等実態調査の概要

① 目的

空家特措法では、空家等は所有者等による適正な管理を含めた「利活用」や、周辺的生活環境に悪影響を与えるおそれのある空家等は「除却」を行うよう求めています。

そのため、利活用可能な空家等や、除却の対象とすべき家等を把握するとともに、対策を検討する基礎資料とするため、市全域において、2018(平成 30)年に実施した空家等実態調査以降、新たに空家等となった新規空家等について、空家等実態調査(空家等の所在地、軒数、状態等の把握)を実施しました。

② 調査対象

市全域にある空家等のうち、2018(平成 30)年に実施した空家等実態調査以降、概ね 1 年以上住んでいない(営業・使用していない)と思われる専用住宅、店舗併用住宅、店舗、工場。(新規空家等)

※空家等特措法第 2 条第 1 項の規定による「空家等」を対象

③ 現地調査期間

2022(令和 4)年 6 月 1 日から 2022(令和 4)年 7 月 31 日

④ 調査内容

調査結果の整合性を確保するため、2018(平成 30)年に実施した空家等実態調査の内容を基本とします。

- ・現地に赴き、目視による外観から状態(居住の可能性)を判断する外観調査を基本とします。
- ・対象となる空家等を調査用地図の該当箇所に印をつけることにより、空家等の所在地を把握。
- ・把握した空家等の状態(居住の可能性)を把握。

※居住の可能性

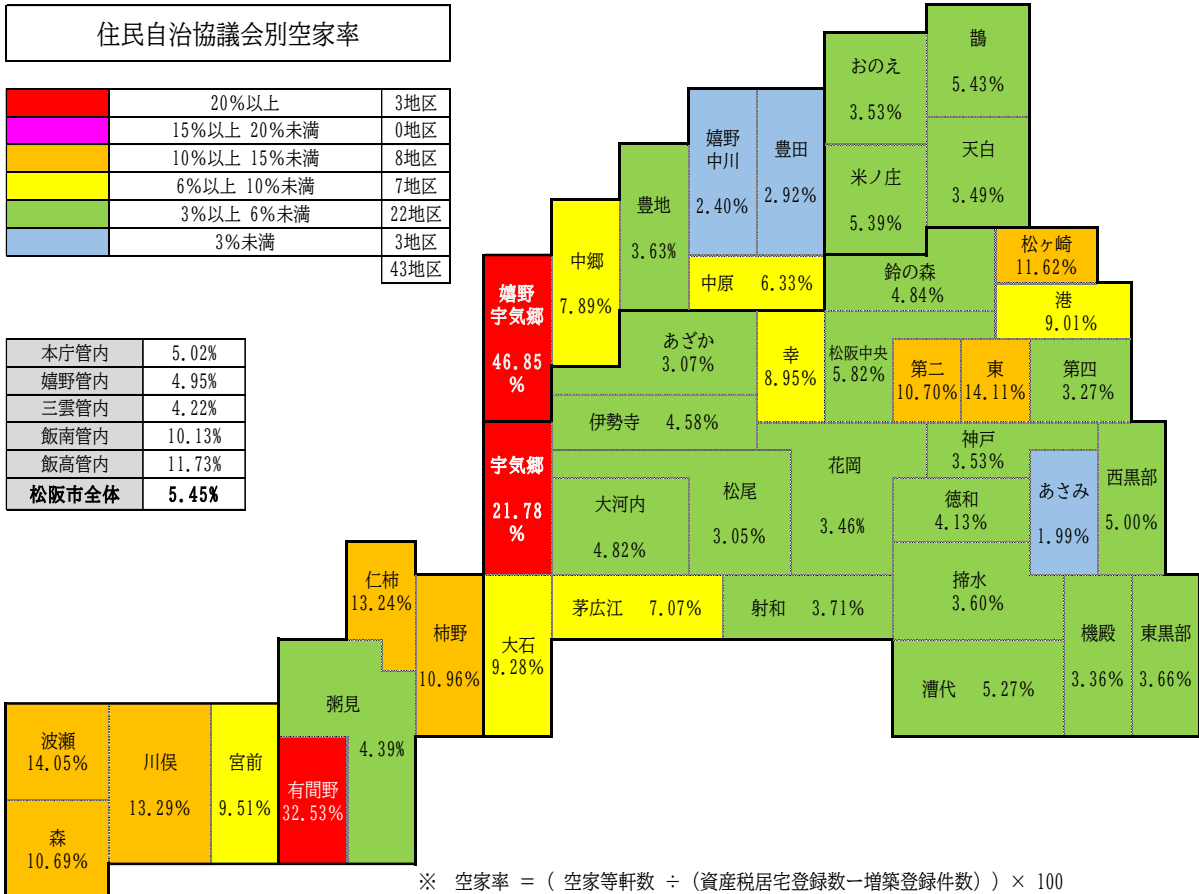
- A：すぐに住めそうな空家等(適切な管理がされており、居住可能な状態)
- B：少し手を加えればすぐに住めそうな空家等(居住するには簡単な修繕等が必要)
- C：住めない空家等(居住するには建て替え又は相当な修繕等が必要)

資料：第2次松阪市空家等対策計画

住民自治協議会別空家率

20%以上	3地区
15%以上 20%未満	0地区
10%以上 15%未満	8地区
6%以上 10%未満	7地区
3%以上 6%未満	22地区
3%未満	3地区
	43地区

本庁管内	5.02%
嬉野管内	4.95%
三雲管内	4.22%
飯南管内	10.13%
飯高管内	11.73%
松阪市全体	5.45%



※ 空家率 = (空家等軒数 ÷ (資産税居宅登録数 - 増築登録件数)) × 100

資料: 第2次松阪市空家等対策計画

市全域の住民自治協議会別空家率

住宅・土地統計調査:

「標本調査(サンプル調査)」であり、全ての母集団から抽出した標本により全体数を推定する調査。正確な値と誤差が生じる可能性がある。

なお、住宅・土地統計調査における「空き家」は、以下の①～④の「住宅※」を合わせたもの。

※住宅: 一戸建の住宅やアパートのように完全に区画された建物の一部で、一つの世帯が独立して家庭生活を営むことができるように建築又は改造されたものをいう。

① 二次的住宅

- ・別 荘…週末や休暇時に避暑・避寒・保養などの目的で使用される住宅で、ふだんは人が住んでいない住宅
- ・その他…ふだん住んでいる住宅とは別に、残業で遅くなったときに寝泊まりするなど、たまに寝泊まりしている人がいる住宅

② 賃貸用の住宅

新築・中古を問わず、賃貸のために空家になっている住宅

③ 売却用の住宅

新築・中古を問わず、売却のために空家になっている住宅

④ その他の住宅

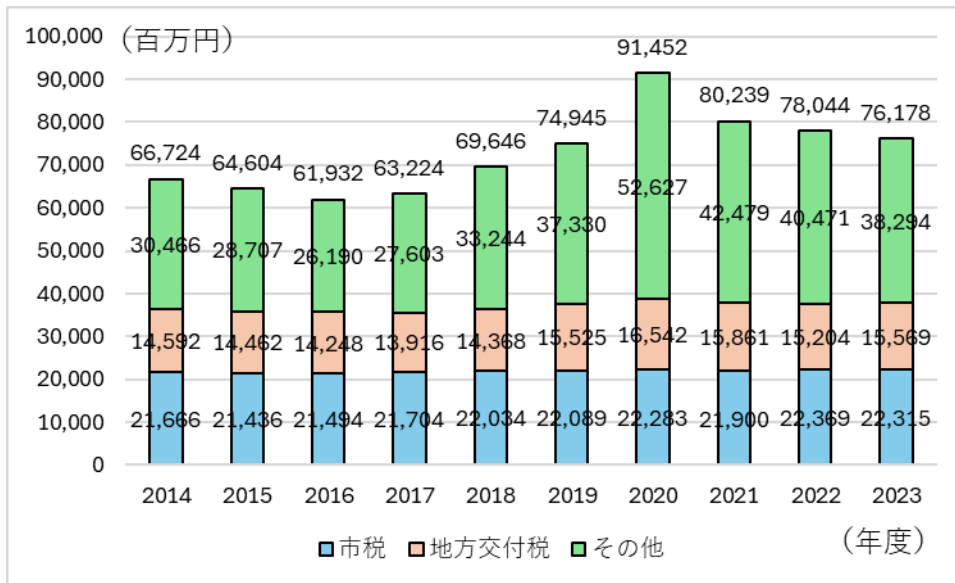
上記以外の人々が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅など(注:空家の区分の判断が困難な住宅を含む。)

(6)財政

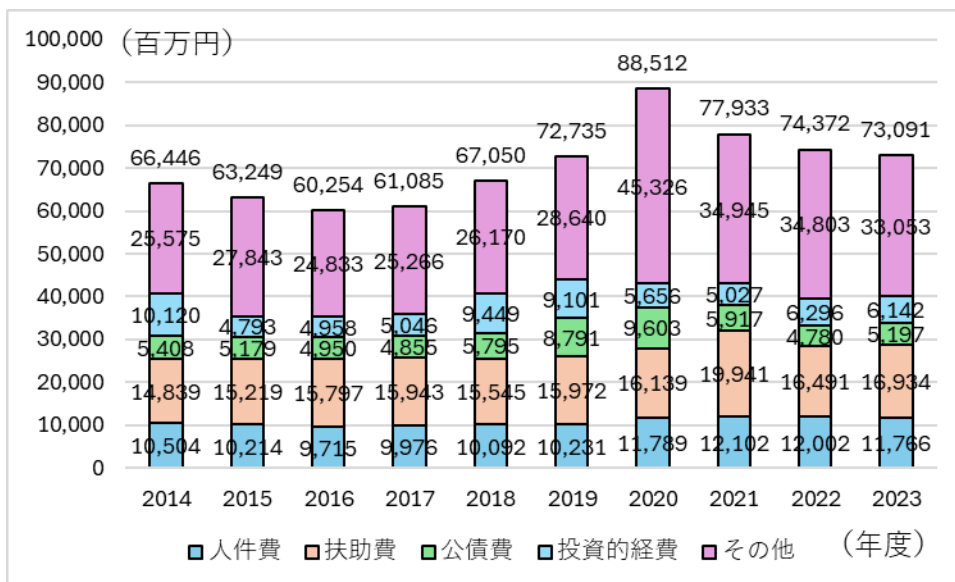
歳入は概ね横ばい傾向にあるが、2020(令和2)年度は新型コロナウイルス対応の臨時交付金のため、大きく増加している。

歳出は高齢化の進行により、扶助費(福祉関係)が増加傾向にある。今後は公共施設の更新費などに必要な投資的経費の増加が懸念される。2020(令和2)年度は歳入と同様に、新型コロナウイルスの対応に関する費用のため大きく増加している。

歳入の推移



歳出の推移



資料:松阪市

3 市民ニーズ

市民ニーズについては、2024(令和6)年9月に実施した市民意識調査(3,000人アンケート調査)結果及び2024(令和6)年4月に実施した「都市計画マスタープラン・立地適正化計画に関するアンケート調査」、2021(令和3)年11月に実施した「地域公共交通に関するアンケート調査」から把握する。

問:あなたが思う松阪市の良いところはどんなことですか。(〇は3つまで)

「緑が比較的多く自然環境に恵まれている」が34.6%と最も高く、次いで「買い物が便利」が31.1%、「食べ物がおいしい」が26.0%となっている。

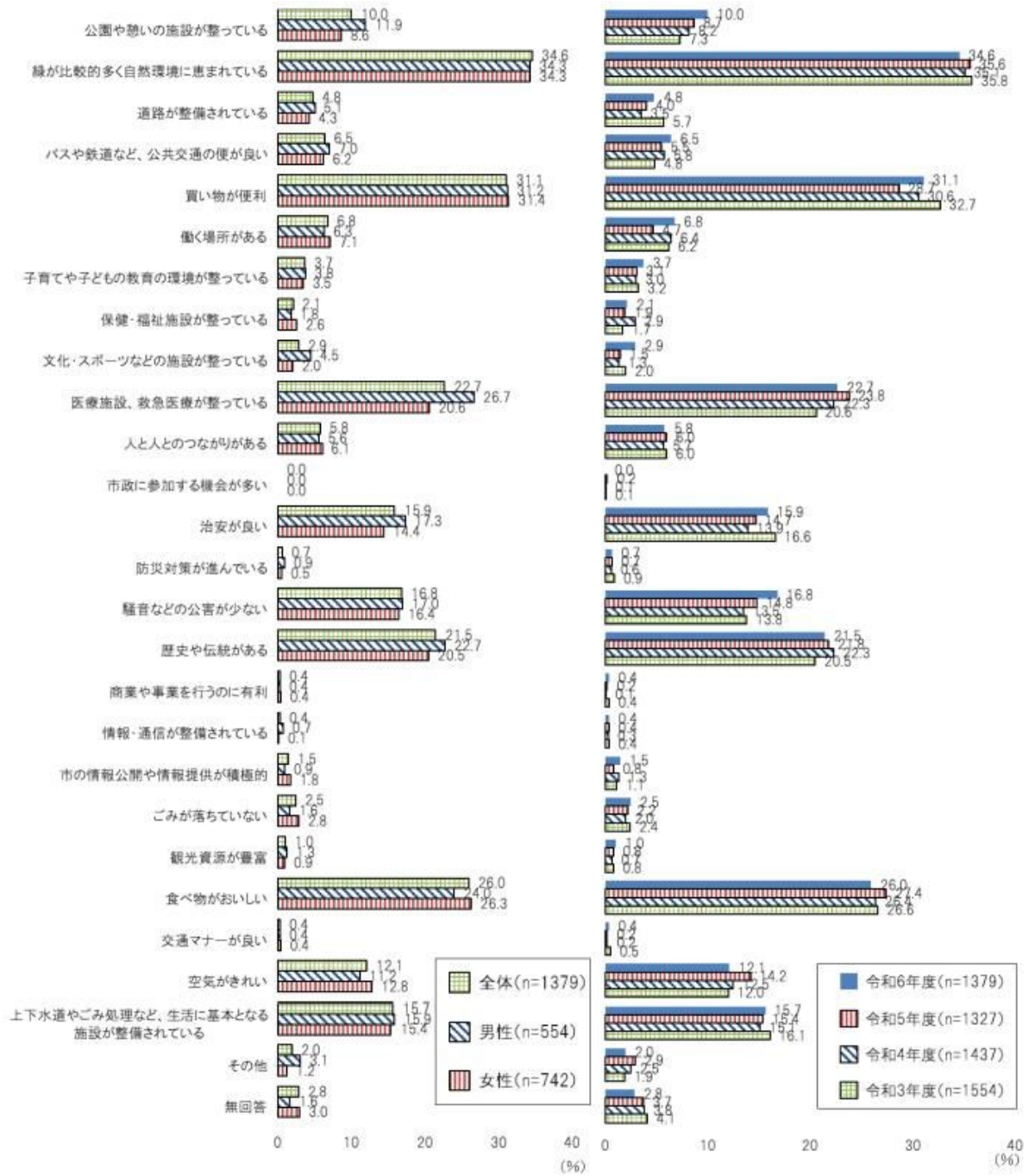
前回(2023(令和5)年)と比べると、上位3項目については項目、順番いずれも同じであった。前回に比べ「買い物が便利」「治安が良い」「公園や憩いの施設が整っている」などで高くなっており、一方で「空気がきれい」「緑が比較的多く自然環境に恵まれている」「医療施設、救急医療が整っている」「歴史や伝統がある」などで低くなっている。

<上位3項目>

		1 番目		2 番目		3 番目	
全体		緑が比較的多く自然環境に恵まれている	34.6%	買い物が便利	31.1%	食べ物がおいしい	26.0%
性別	男性	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	34.3%	買い物が便利	31.2%	医療施設、救急医療が整っている	26.7%
	女性	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	34.3%	買い物が便利	31.4%	食べ物がおいしい	26.3%
年代別	10 歳代	食べ物がおいしい	37.7%	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	27.9%	歴史や伝統がある 空気がきれい	24.6%
	20 歳代	買い物が便利	36.8%	食べ物がおいしい	34.2%	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	31.6%
	30 歳代	食べ物がおいしい	35.5%	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	30.0%	買い物が便利	28.2%
	40 歳代	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	33.5%	食べ物がおいしい	31.8%	買い物が便利	31.3%
	50 歳代	食べ物がおいしい	32.8%	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	32.3%	買い物が便利	31.0%
	60 歳代	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	39.1%	買い物が便利	30.5%	食べ物がおいしい	24.7%
	70 歳以上	緑が比較的多く自然環境に恵まれている	35.8%	買い物が便利	33.6%	歴史や伝統がある	25.8%

市民意識調査(3,000人アンケート調査)2024(令和6)年9月 より

【参考】過年度の調査結果との比較



市民意識調査(3,000人アンケート調査)2024(令和6)年9月 より

問:あなたが思う松阪市の良くないところはどんなことですか。(〇は3つまで)

「バスや鉄道など、公共交通の便が悪い」が 37.3%と最も高く、次いで「交通マナーが悪い」が 30.1%、「観光資源が少ない」が 15.8%となっている。

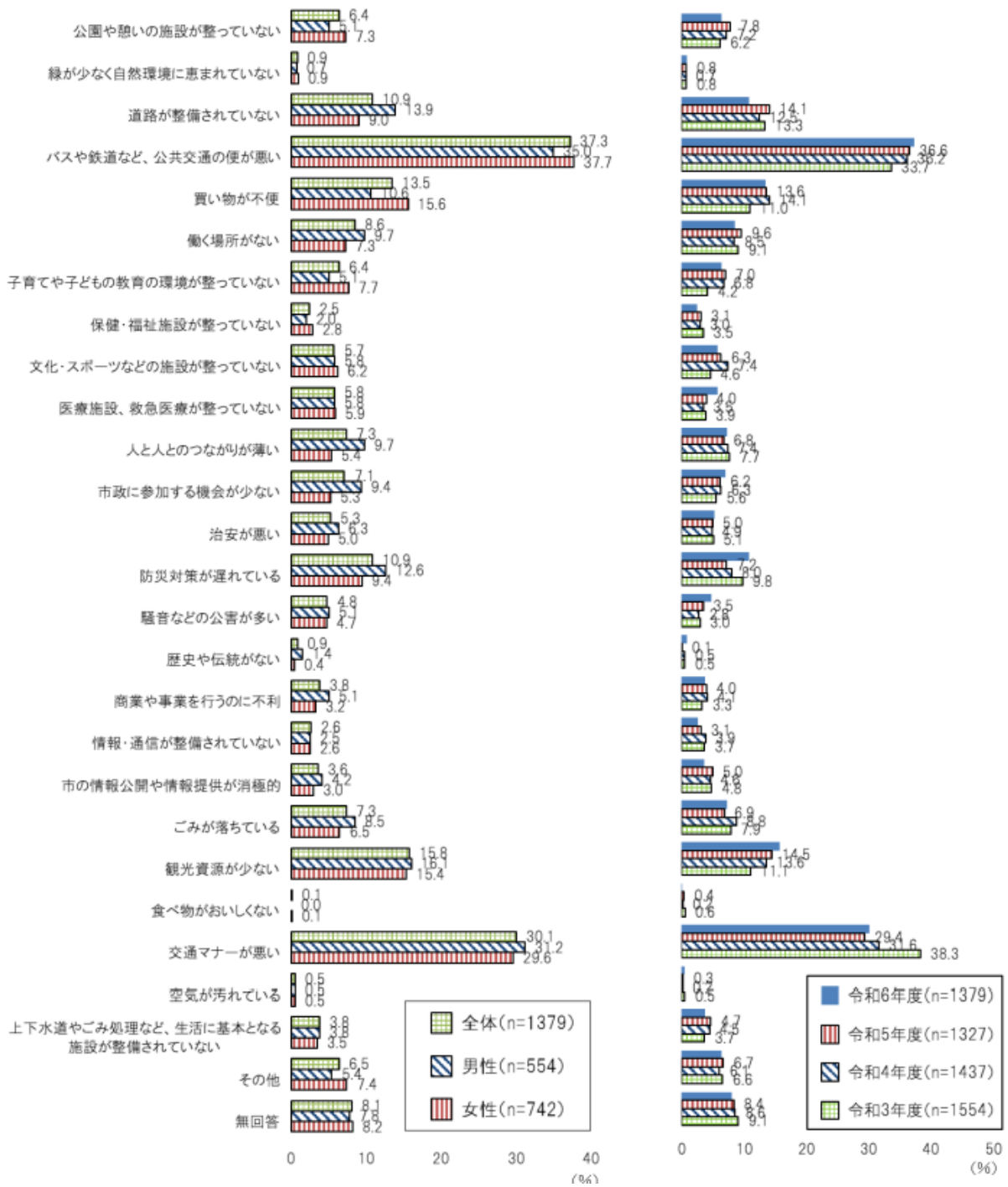
前回と比較すると、「防災対策が遅れている」「観光資源が少ない」等が高くなっており、一方で「道路が整備されていない」「公園や憩いの施設が整っていない」等は低くなっている。

<上位3項目>

		1 番目		2 番目		3 番目	
全体		バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	37.3%	交通マナーが悪い	30.1%	観光資源が少ない	15.8%
性別	男性	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	35.0%	交通マナーが悪い	31.2%	観光資源が少ない	16.1%
	女性	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	37.7%	交通マナーが悪い	31.2%	買い物が不便	15.6%
年代別	10 歳代	交通マナーが悪い	41.0%	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	32.8%	公園や憩いの施設が整っていない 道路が整備されていない 買い物が不便 観光資源が少ない	14.8%
	20 歳代	交通マナーが悪い	38.2%	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	27.6%	治安が悪い	21.1%
	30 歳代	交通マナーが悪い	34.5%	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	25.5%	子育てや子どもの教育の環境が整っていない	23.6%
	40 歳代	交通マナーが悪い	36.9%	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	36.4%	観光資源が少ない	17.6%
	50 歳代	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	38.9%	交通マナーが悪い	35.4%	観光資源が少ない	17.5%
	60 歳代	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	45.2%	交通マナーが悪い	29.7%	観光資源が少ない	14.7%
	70 歳以上	バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	37.2%	交通マナーが悪い	20.5%	観光資源が少ない	16.4%

市民意識調査(3,000 人アンケート調査)2024(令和6)年9月 より

【参考】過年度の調査結果との比較

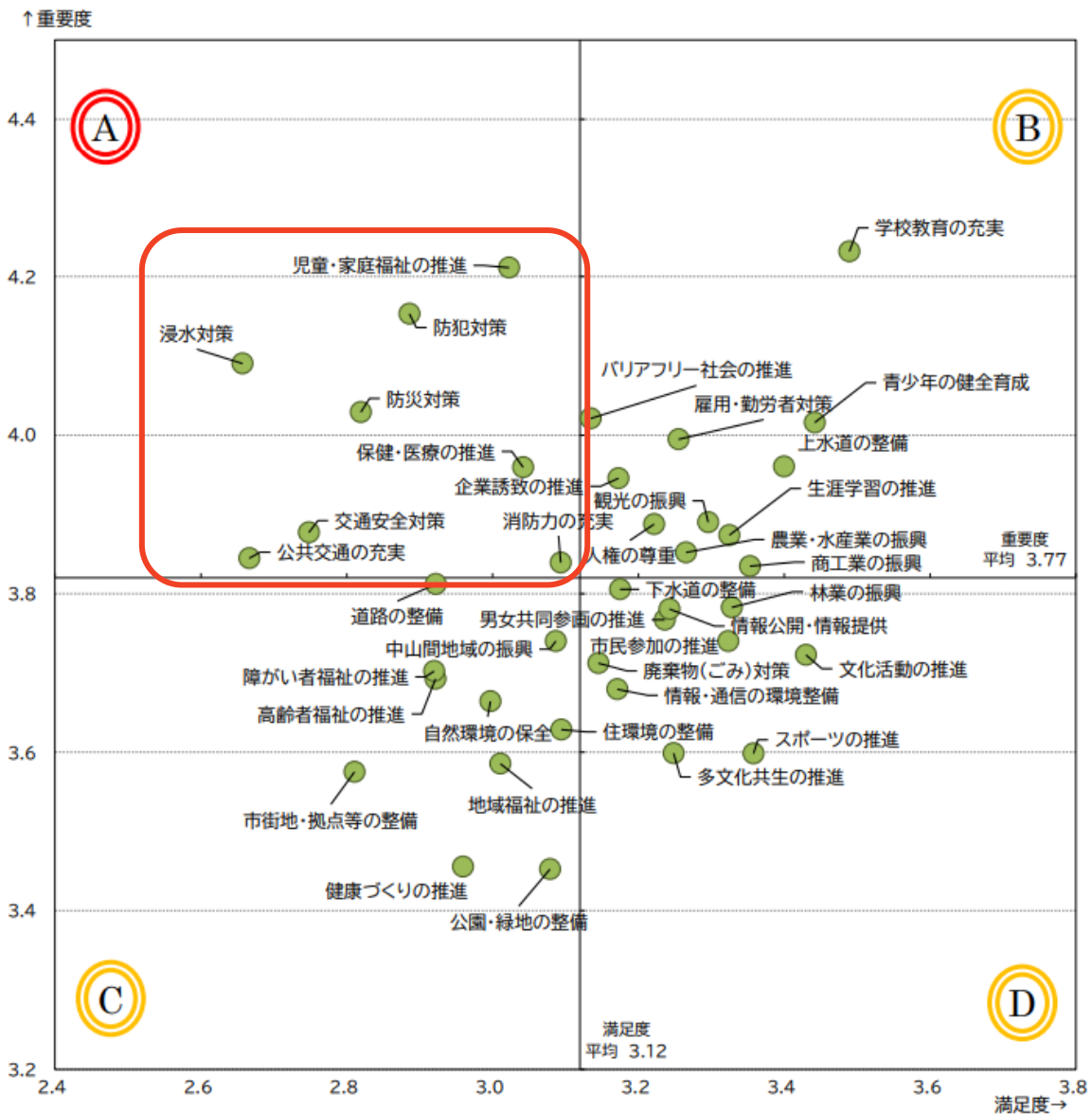


市民意識調査(3,000人アンケート調査)2024(令和6)年9月より

問：松阪市の政策に対し、満足度、重要度でそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。

『満足度が低く、重要度が高い＝最重点項目(優先すべき施策)』は、以下が挙げられている。

- 地震や台風などの災害に強いまちづくり(防災対策)
- 浸水被害の軽減に向けた河川改修や雨水排水施設の整備(浸水対策)
- 交通事故のないまちづくり(交通安全対策)
- 地域における多様な移動手段の確保(公共交通の充実)
- 犯罪をなくし、安全で安心して暮らせるまちづくり(防犯対策)
- さまざまな災害にすばやく対応できる地域の消防力(消防力の充実)
- どこでも、いつでも安心して病院や診療所にかかる取組(保健・医療の推進)
- 子どもたちがのびのび育つ環境づくり(児童・家庭福祉の推進)



市民意識調査(3,000人アンケート調査)2024(令和6)年9月 より

問:お住まいの地域の鉄道駅や地域振興局、地区市民センター周辺等に特に必要と思う施設を最大3つまでお答えください。

地域の拠点(鉄道駅・地域振興局・地区市民センター周辺等)に特に必要な施設について、
 松阪管内では、「スーパー、ドラッグストア」、「医療施設(病院、診療所など)」の意向が特に高く、次いで、「公園、広場、緑地」、「災害時の避難所」の意向となっている。

嬉野管内では、「スーパー、ドラッグストア」、「医療施設(病院、診療所など)」、「娯楽施設・スポーツ施設」の意向が特に高く、次いで、「公園、広場、緑地」、「飲食店(レストラン、居酒屋など)」の意向となっている。

三雲管内では、「スーパー、ドラッグストア」、「飲食店(レストラン、居酒屋など)」、「医療施設(病院、診療所など)」、「公園、広場、緑地」の意向が特に高く、次いで、「災害時の避難所」、「銀行、郵便局」の意向となっている。

(都市計画区域内)

	松阪管内	嬉野管内	三雲管内
コンビニエンスストア	21.7	10.8	11.1
スーパー、ドラッグストアなど	39.5	35.1	38.9
医療施設(病院、診療所など)	36.4	32.4	36.1
福祉施設(老人ホーム、通所介護など)	11.2	8.1	5.6
飲食店(レストラン、居酒屋など)	21.7	27.0	38.9
公園、広場、緑地	26.2	27.0	36.1
コミュニティ施設(公民館、市民センター)	11.7	8.1	8.3
銀行、郵便局	21.9	10.8	25.0
娯楽施設・スポーツ施設	16.4	32.4	13.9
幼稚園、保育園、認定こども園	6.2	5.4	5.6
小学校、中学校	8.6	8.1	5.6
災害時の避難所	22.4	21.6	30.6
観光施設(道の駅など)	11.0	13.5	16.7
宿泊施設(ホテル、旅館など)	4.3	5.4	0.0

「都市計画マスタープラン・立地適正化計画に関するアンケート調査」2024(令和6)年4月 より

問:あなたの地域公共交通の利用状況をそれぞれ教えてください。

地域公共交通を1か月に1日以上利用している人は1.4%から7.5%であり、主な利用目的は、鉄道は「趣味・娯楽」、バスは「通院」、「買物」、タクシーは「通院」が多くなっている。

利用しない理由は、「車を利用できるから」が最も多いですが、次いでバスは「近くにバス停がないから」、タクシーは「運賃が高いから」という理由が5.6%から10%となっている。

■地域公共交通の利用実態

	三重交通バス	鈴の音バス	コミュニティ交通	タクシー	鉄道
利用頻度※ ()は、免許を持っていない人	3.2% (8.6%)	1.4% (4.1%)	2.3% (5.9%)	4.6% (12.1%)	7.5% (7.6%)
利用目的 (複数回答)	通院 35.3% 買物 21.8% 趣味・娯楽 20.2% 食事 11.2%	買物 34.3% 通院 27.8% 趣味・娯楽 23.2% 公共施設利用 12.1%	通院 44.2% 買物 32.6% 趣味・娯楽 15.1% 観・鑑 14.7%	通院 46.8% 食事 17.8% 趣味・娯楽 13.3% 買物 7.8%	趣味・娯楽 44.4% 買物 15.0% 通院 13.1% 食事 10.2%
利用しない理由	車を利用 63.0% バス停がない 10.0%	車を利用 69.6% バス停がない 7.8%	車を利用 69.9% バス停がない 5.6%	車を利用 83.6% 運賃が高い 8.8%	—

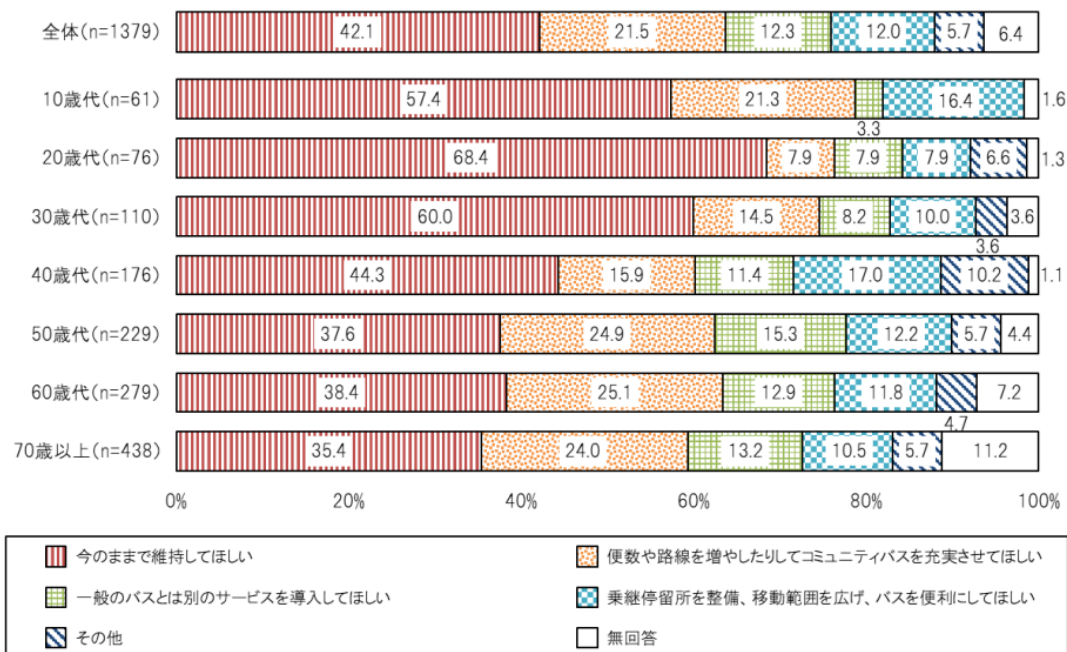
※一人で外出可能な人で、1か月に1日以上利用率

「地域公共交通に関する市民(高齢者)アンケート調査」2021(令和3)年11月より

※調査対象者:松阪市内在住の65歳以上の高齢者

問:今後需要が増えていくコミュニティ交通に、市民として何を望みますか。(〇は1つだけ)

「今のままで維持してほしい」が42.1%と最も高く、次いで「便数や路線を増やしたりしてコミュニティバスを充実させてほしい」21.5%、「一般のバスとは別のサービスを導入してほしい」12.3%となっている。年代別にみると、「今のままで維持してほしい」の割合は20歳代で最も高く68.4%となっており、70歳以上で35.4%と最も低くなっている。



市民意識調査(3,000人アンケート調査)2024(令和6)年9月より